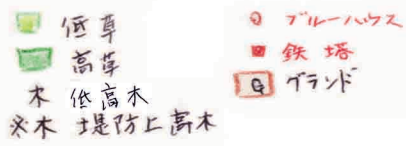


あしだち

荒川探鳥 ガイドマップ



C-右岸

- ここはキジが見られたが、最近は見られない。原因はブルーハウスでは…。
- 野犬に吠えられ追われることもある。低いところにいる野鳥には犬は脅威だ。
- この地区の半分はグランド、川岸には釣り人、カモのいる場所は減少、盛土されている付近のヒバリへの影響は気になる。
- 草刈りや草焼きの影響でタヒバリの増減があるかも知れない。
- イワツバメの減少はヒメアマツバメによる巣の乗っ取りの影響もあるのではないかな。

D-右岸

- ブルーハウスの多い所で高草に阻まれ奥に入れない。横道がほしい。
- 安定した広域緑地がベニマシコを誘うのかも知れない。
- キジ・コミズクが見られた所だが、最近は見られない。ブルーハウスの影響は大きいと思う。
- タヌキの繁殖している所で、ブルーハウスとその犬・猫は野鳥にとって危険な存在である。
- 外部から犬・猫・タヌキ用のエサを撒きに来る人が多い。ここでは日常的なことようだ。
- 川岸の木工沈床の野鳥への好ましい影響が大と思う。木工沈床と陸地の草原の間に干潟が出来、ここにサギ・シギ類などが入るようになった。

E-右岸

- 平日にはタヒバリ・ヒバリが見られる所だが、休日調査では姿が少ない。
- ほとんどがグランドで占められている。人の出が多い。
- 冬鳥が入ると種数は増える(12月調査)。しかし、カモ類は減少している。ヒドリガモは例外的に増えている。
- 「マムシ注意」の看板で川岸への足が止まることもあった。(現在は看板なし)
- 日曜日、水上スキーが行ったり来たりして、カモは逃げてしまう。

F-右岸

- チョウゲンボウ・ムクドリ・ドバトやカラス類にとって鉄橋は恰好の営巣所。彼らにとってブルーハウスは繁殖に影響なし。ブルーハウスの被害者はオオヨシキリ・ウグイスたちだ。
- 虹の広場とグランドに来ている人たち、それに川岸に釣り人達がいる。調査が日曜日のため、ここでの鳥の確認数はとても少ない。ただ、グランド草地の草を餌とするヒドリガモは増えているようだ。一方、川中の餌を採るキンクロハジロ・ホシハジロは激減している。
- 人のいないグランドはヒドリガモ・カルガモ・コガモやウミネコ・ユリカモメ・セグロカモメの休息場所となっている。

G-右岸

- グランドの草地を餌場にヒドリガモが増加し、オナガガモは減少している。
- ホシハジロ・キンクロハジロは減少している。採餌場の荒川は船と波で落ち着けず休息する所がない。餌となるものがあるのか心配なところだ。
- グランドにヒドリガモとヒバリがコンスタントに来ている。
- 下流の草原には数こそ少ないが、オオヨシキリは毎年渡来している。
- 潮の干満で現れる干潟にはそこを餌場にするサギ・シギ類が飛来する。
- 自然が安定している所は鳥相に変化はない。
- 川に人を連れ出す国交省の政策の結果としての現状は、野生生物にとって迷惑なことになっているのではないかな。

A-左岸

- 都市農業公園と芝川に挟まれた所で余り変化のない所である。何年か前に鹿浜橋下流で高草が刈り取られ土盛をした工事で降は、実感として小鳥が入らなくなった。
- 近年12月調査ではオオパンの数が増えた。安定して飛来している。

B-左岸

- 河川敷とはいえ都会の河川敷、広域をグランドが占有、葦原にはブルーハウス、川岸には釣り人、調査はそれを遠巻きにせざるを得ない。
- 犬の散歩者や堤防補強工事などの影響はあっても、オオヨシキリは葦を見つけるとエサや営巣を連想して飛来し居着くのだろう。
- コンスタントに出ている5月のセッカ、このどこかで繁殖しているはずである。
- それにしても年々野鳥棲息環境は悪化していると思う。
- カモ類の餌はこの川にあるのか疑問がある。

C-左岸

- 広い葦原があり鳥達には良い環境で、セッカ・オオヨシキリはコンスタントに出ている。しかし冬には葦が刈り取られ鳥の隠れ場所が少なくなってしまう。
- グランド横にある鉄塔の周りだけは変わらずに葦で囲まれた、綺麗とは言えない池があり、そこではバンが繁殖したこともある。ここはバンにとって安息地なのか、それとも止むを得ずの繁殖場所なのか。
- ブルーハウスで犬を飼い、釣り人もいる。グランドでは野球が行われ人が多い。カモ類には休息場がないようで、見られる数は少ない。またここではキジバトはほとんど見たことがなく、ムクドリも冬にはほとんど見かけない。

D-左岸

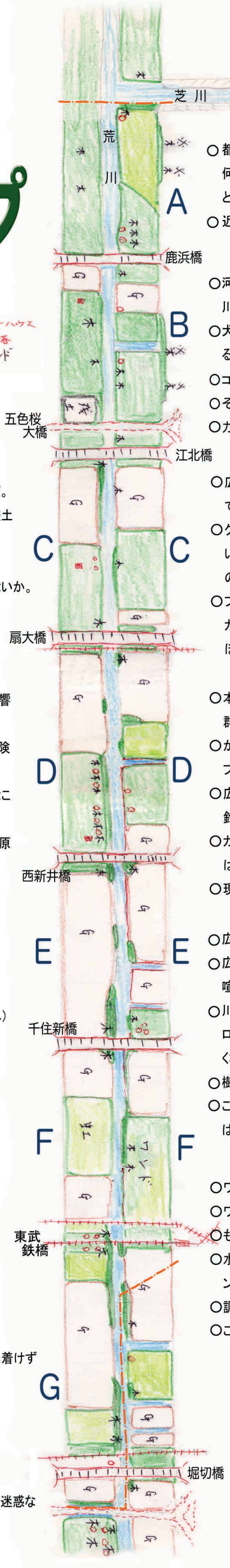
- 本木ワンド周辺の整備の影響か、鳥相が変わり、小鳥類が少なくなった。群れるヒワ類の姿があまり見られなくなった。
- かつてはキジやコミズクが棲みついていたが、最近はずっと見られない。ブルーハウスの影響か。犬・猫・人の出入りが激しい。
- 広いゴルフ練習場、「ゴルフ禁止」と書かれた場所を占領してゴルフをする人々、釣り人、犬を連れた散歩の人々等々、けっして野鳥にやさしい環境とはいえない。
- カモ類が減少している(とりわけホシハジロやキンクロハジロ)。考えられる原因は高速ボートの増加による高波や環境変化によるエサの減少だろうか。
- 現在、河川敷を半減するような堤防工事中で、その影響が懸念される。

E-左岸

- 広い葦原の中に入る事が出来ないので観察個体数の正確さに疑問は残る。
- 広い葦原の割にアオジ・オオジュリンの姿が少ない。ブルーハウスとその犬の喧騒の影響かどうかは分からない。
- 川から水門までの水路に休むカモ類(オナガガモ・ホシハジロ・キンクロハジロ・コガモ・カルガモ)の数が減少。釣り人の通路になり、カモの休息場がなくなってしまっている。
- 樹木の少ない場所である。グランドに人が多い。野鳥のための休息場がない。
- これまでこのエリアの工事で野鳥の飛来や棲息に影響を与えたと思われる記録はない。

F-左岸

- ワンドを含む川岸に釣り人が多いのでカモ類が近寄れない。
- ワンドの葦が繁茂しすぎてカモたちが入れない。
- もっと緑地が広いとエサはともかく休息場になるのだが…。
- 水際にはネズミがいる。流域にも同様に棲息しているのだろう。従ってチョウゲンボウも繁殖ができるのかもしれない。
- 調査中エサを撒く人は見られなかった。
- このエリアの工事やワンド広場の整備では野鳥の飛来は影響ないようだ。



制作：足立・自然にふれあう会 2009年1月

この探鳥ガイドマップは、「足立・自然にふれあう会」が行った野鳥調査に際し観察したこと、感じたことをまとめたものです。